

令和5年度 事業報告書 中京いきいき市民活動センター

【指定管理者：特定非営利活動法人 あかしやふれあいネットワーク】

1. 管理運営の状況

1 施設運営業務

(1) 職員体制

センター長 1 名、職員 12 名（常勤 2 名、非常勤 10 名）

【人材育成の取組】

- ・月に 1 度のミーティングは必ず行い、業務連絡や日々の業務での改善について意見交換しました。従事者全体で業務の内容や状況を知ることによって来館者からの疑問に対する回答が的確になる事や案内等にも繋がっています。また、センターの周知や事業・イベント広報についても担当者と細部について話し合う事で、適切な広報に繋がっています。
- ・従事者のスキルアップのために、今年度も京都市、京都府施設等で行っている研修やワークショップ、オンラインイベントに参加し、スタッフ間で情報共有しました。

(2) 貸館等

ア 利用件数

(月別)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
147	125	160	149	119	137	151	143	146	123	134	121

(年間)

1,655 件（前年度比 98%）

イ 利用状況

- 年間での利用状況について、傾向などを記載してください。
 - ・前年度比は 98%と減少していますが、新規の利用者や団体は確実に増加しています。貸館使用料の改訂に伴い、継続利用者は、使用時間の削減が見られます。附属備品等の貸出しは新たな備品を用意し、利用者が快適に貸館利用をできるよう努めています。
 - ・傾向として、月初の予約時には継続して利用される方の予約が多く、開館前から玄関前に並ばれています。平日は午前・午後とも個人や少人数の団体、高齢者の団体が利用され、夜には、各団体などが年齢関係なく集中して利用があります。土日は、時間関係なく、利用されています。
 - ・また、事業を開催した事で中京いきいき市民活動センターを知っていただき、個人や団体で利用されることも増えています。学生サークルの利用もあり、活動する中での打ち合わせや、料理室を使用して昼食を作りながら楽しく過ごされています。
 - ・今年度も SNS 等で中京いきいき市民活動センターの存在や活動内容を示し、仮予約可能なことや新たに無料で貸出せる備品の案内を館内に掲示して利用者に知っていただけたことは利用増加につながっていると思います。
- 課題や改善が見られた部分があれば記載してください。
 - ・コロナ禍の中、オンライン会議等で利用される方も多く、利用者に少しでも快適に利用してもらえるよう Wi-Fi 環境を整えました。しかし、建物が鉄筋コンクリートのため、電波が 3 階まで届かない事もある中、利用申請の際には必ず、どのような内容で利用されるのか確認する事で、Wi-Fi 利用をされる方への案内ができて快適に利用してもらえるようになっています。従事者全員が利用者に寄り添い、会話や思いを聞いたり、話す事で活動内容を把握したり、センター

との信頼関係や交流を保てるように努めています。

ウ 利用促進に向けた取組

- センターで取り組まれたことを記載してください。
 - ・ブラックボードに館内の様子や事業の様子をわかりやすくし、本館とサロンの玄関先に置いています。通りから立ち止まって見て行かれたり、声をかけて来られる時もありました。
 - ・令和4年度より、仮予約システムを取り入れた事が利用者に浸透しています。遠方から利用申請に来られる方や都合の合わない方は電話・メール・グーグルフォーム・LINE から仮予約システムを利用されています。メールやグーグルフォーム・LINE については仮予約の連絡があれば必ず返信して、状況を伝えます。すでに予約が入っている場合もあるので、その際は空き状況のいくつかの候補を提示して利用者に分かりやすく案内しています。
 - ・今年度は有線マイクと Bluetooth スピーカーを購入し、無料貸し出しをしています。
 - ・昨年度からの独自の Wifi 環境やプロジェクター利用も増えています。
 - ・利用者の活動やセンター事業の様子を定期的に SNS 等(LINE・Instagram・Facebook・note)で配信したことで、興味を持った方からの利用や、事業への参加、団体から団体への繋がりが増えました。
 - ・当センターの紹介やアクセスが便利な事を前面に打ち出したポスターを作成し、近隣の掲示板や施設に掲示してもらい、問い合わせもありました。
 - ・今年度も「いきいき通信」を発行し、事業の様子や活動団体の様子を明記していることで、初めての来場者にもわかりやすく、興味を持っていただいた事業への参加や利用にも繋がりました。
 - ・館内の印刷物も随時、わかりやすく、張替え、SNS 等の QR コードも読み取れるよう貼りました。

エ その他

- サロンについて、利用状況や前年度と比較した増減の分析等を記載してください。
 - ・サロンは多世代交流事業の3取組を毎週行うことで、利用人数は増加しており、他の事業の参加や新規サークルへの誘導ができました。多世代交流事業では学生ボランティア（すまいるプロジェクト・先端科学大学・立命館大学・花園大学）も参加していることや、市民活動団体とコラボでイベントを行ったりしているので利用人数が増えています。市民活動団体のコラボ件数も増えました。

(3) 情報発信等

ア 取組実績

- ・令和4年度から LINE を活用した広報を行っており、今年度は配信できるメッセージ数の上限を1000通から5000通にアップグレードし、毎週3～4回程度のペースで配信を行っています。貸館利用者や事業参加者へ LINE の登録を促し、最新の情報を受け取ってもらえるよう声かけを行いました。
- ・掲示板のリニューアルとして、入口掲示板を刷新し、各事業のチラシやイベントスケジュールを掲示しました。取り組みが可視化されることでセンターへの理解が深まり、事業への参加にもつながると考えました。また、各会議室の掲示板に HP や SNS へ誘導する二次元コードを貼り出し、利用者が情報を取得しやすい環境づくりに努めました。
- ・SNS 担当スタッフは、毎週行っている多世代交流事業や他の事業や募集、センターの紹介など写真や動画で配信し、センターの情報公開を行いました。
- ・時には、団体の了承があれば、活動している個人や団体の写真や動画も配信しました。

- ・地域のイベントや活動団体のワークショップに参加し、交流を深め、当センターの紹介や活動団体の紹介ができたことで、当センターの事業参加やコラボイベントに繋がりました。
- ・近隣の三条会商店街の大きなイベント「七夕夜市」や山王神社の「山王まつり」で「中京いきセン」として参加が可能となり、センターを紹介する広報活動を行いました。その他、地域の祭りや繋がった団体からの紹介で出向き広報ができました。

イ 取組の効果

- ・LINE1000 通では1 案件（1 イベント）1 回の配信が限度だったが、複数回配信ができるようになり、LINE 配信後に申し込みや問い合わせをいただくケースが多く、予定忘れ・申し込み忘れを防止するリマインド機能も果たせていると考えます。アンケートでは「SNS を見て参加した」との回答が僅かながら増加してきており、LINE の友達（登録者数）が、4 月と比較し、163 件増加しました。
- ・日々の利用のなかで、掲示物の写真を撮影したり二次元コードを読み取ったりと、各種事業へ関心を示していただけている様子が見られました。また、窓口にて事業に関する質問を受けることもあり、掲示板の効果を感じています。掲示物の貼り替え作業中に「こういうイベントもやっているんですね」とお声がけいただいたこともあり、スタッフと来館者がコミュニケーションをとるきっかけにもなっています。
- ・SNS 等で繋がっている方は、随時、情報を見て参加され、問い合わせや事業への申込みをされる方もいました。また団体に興味があり紹介し繋がれた事例もありました。
- ・多世代交流事業の“ぶち合わせ太鼓”をインスタで見られた三重県の太鼓づくりをされている方が、太鼓を5 個寄付して頂きました。花園大学の学生と共に参加者と太鼓に励んでおられ、地域のイベントで披露もされています。
- ・随時、学生ボランティア募集も行っており、先端科学大学・京都産業大学・立命館大学の学生から問い合わせがあり、面談と事業説明を行った上で、地域貢献やボランティア経験をしたいとのことで、当センター事業に参加してもらっています。
- ・団体の方が、当センターの事業に興味を持っていたことで、コラボイベントをする機会ができ、また次年度も協働で行える企画を計画しています。

（4）管理運営

- ・防火管理者の選定（中京消防署にも消防計画を提出済）、建築物の保守管理(日常点検等)、建築設備の保守管理、備品等の保守管理、清掃業務（日々・空調）、保安警備業務、植栽等保全業務等を実施しました。

(5) その他

○ 「施設運営の質を高めるための取組」や「将来に向かって地域と共に進化するための取組」で実施したものがあれば、その内容を記載してください。

- ・来場者や事業参加の方の声を聞く意見箱を設置し、興味があること、センターへ求めていることなどが聞けました。
- ・地域のイベントや活動団体のワークショップに参加し、交流を深め、当センターの紹介や活動団体の紹介ができたことで、当センターの事業参加に繋がりました。
- ・市民活動が活発になるように、相談業務等で広報支援、助成金や補助金の情報発信を上手く伝え、より良く活動ができるよう支援していきます。

2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

【事業名】SDGs 事業（活性化事業）

事業の概要

- 1 開催日時： ①7/9 ワークショップ(京都大学)
②9/28・10/13・11/10・12/8 ワークショップ（ソフトバンク）
③7/20 研修会 ④8/7・8/9・8/10 ワークショップ（ディープピープル）
⑤4/22・7/1・10/7・12/2 ワークショップ（ボーノ）
⑥6/24 講演会 ⑦6/7・8/30 ワークショップ
⑧10/1 講演会とワークショップ（光華女子大学）
⑨3/17 中京いきセンフェスティバル

2 開催場所： 中京いきいき市民活動センター 会議室・料理室・サロン

3 参加人数： ①11名 ②9名 9名 12名 11名 ③6名 ④9名
⑤8名 8名 8名 10名 ⑥11名 ⑦7名 11名 ⑧21名 ⑨49名

4 協力団体等：京都大学エコ〜るど京都学生・ソフトバンク・NPO 法人ディープピープル
学生団体ボーノ・京都光華女子大学・京野菜マイスター有資格者平田氏・
京都生活協同組合・大学生ボランティア

5 予算： 2,852,500 円 / 決算： 2,856,667 円

1 事業内容

○ 事業の内容を具体的に記載してください。

地域住民，市民活動団体と連携し取り組む SDG s プロジェクトに取り組みました。

いきいき市民活動センターから発信し，人々への SDG s 意識を高め，自分のため将来のためという重要なことを心に響かせて，活動団体と協働で取組みを企画し、地域の活動の支援と SDGs 参加者の意識を高める目的で開催しました。

①京都大学の学生主体で、食品ロスをテーマとし、食品ロス削減について学ぶワークショップを開催し、親子で参加でき「食べられる」部分をすべて使って、焼きそばを作りました。

②現在社会を生きやすくするために、ソフトバンクの方と学生ボランティアの協力による、スマホのワークショップを4回開催しました。

③小・中学生向けのワークショップをサポートしてくれる大学生と ZOOM による研修会を開催しました。

④アクティブラーニング方式で問題解決に向けたアイデシアを企画提案するワークショップを開催し、出来上がった内容を近隣のイベントで発表しました。

⑤学生団体ボーノの企画による、食についてのワークショップを4回開催し、子ども達に食について、伝えました。

⑥「魔法の質問」を使い、息詰まる子育ての悩みや問題を解決に繋げる講演会を開催しました。

⑦京野菜マイスターの資格を持つ料理人と、奥深い「京の伝統野菜」 京野菜について学ぶワークショップを開催しました。

⑧京都光華女子大学の原教授より身体づくりのためのたんぱく質やカルシウムの大切さやとり方をわかりやすく講演頂いた後、LFA Japan 大森氏による災害時でも活用できる、アレルギーのある方に便利な、ポリ袋クッキングを参加者が体験できるワークショップを開催しました。

⑨SDG s 事業に参加された団体や中京いきセンを行き交う団体で、いきセンフェスティバルを開催しました。

2 準備段階での工夫

- ・チラシにはOR コードを必ず載せ、読み取りにより、情報が常に見られるようにしました。
- ・協働団体とは定期的に会議やオンライン会議、メールのやり取りを行い情報交換しました。
それぞれの団体の特性を活かし、市民に興味を持たせ参加してもらえるような内容にし、計画的に広報の準備を行い、施設だけでなく病院やお店等にもお願いし、チラシを配布しました。
- ・大学生ボランティアも学校に配布したり、学校のサイトに載せてもらったりして他方からの学生が協力してくれ、事前に研修会を行い、学生が気軽に参加できるようにしました。学生とはメールよりもLINEの反応が良いので、LINEへ繋がってもらい、LINEグループで連絡や日程調整を行い、スムーズに取り組みました。
- ・事前に他の事業の参加者の会話や団体の情報をスタッフで共有しました。
- ・受付では、来場者にセンターをよく知ってもらえるよう、パンフレットや事業のチラシを置き、質問に随時答えられるよう担当者が張り付きました。来場者の中には、利用したい声も聞け、LINE登録などの誘導も心掛けました。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

- 事業を実施することで期待される効果や、目標としたことなどを記載してください。
 - ・幅広い層の方に、自分のため将来のためという重要なことを心に響かせて、参加団体との連携を図ります。
 - ・専門的立場からアドバイスを受ける機会と情報共有の場をつくることで、ひとりでできること、みんなのできることへの目標ができ、具体的な活動が見え、幅や質の良い高い取り組みができます。
 - ・参加人数の増加や協働による活動、多種多様なアイディアの取り入れを目的とし、参加者が主体の学習となり、自主性を引き出します。
 - ・それぞれの意見を取り入れ、地域住民に伝え人々の意識改革と自然にSDG s（環境）の達成に向けて一歩踏み出す取り組みとなり、あらゆるひとを巻き込むことで、将来性のあるまちづくりを目指します。
 - ・学生の参加を誘導すること、参画してもらう事で、学生の自主性や自信、責任感を持てる目的が期待できます。

(2) 事業実施による目標の達成度

○ (1) の達成度について自己分析し、記載してください。

- ・子どもから高齢者まで幅広い層の方に参加してもらえる事業となりました。
- ・大学や企業、学生団体の専門的な知識による内容で、質の高い事業となり参加者の満足へ繋がりました。参加者からの反応も良く、継続して、他事業に参加してもらえました。
- ・大学生に協力頂いたことで、それぞれの学生の考えや行動が芽生え、将来の担い手の支援ができました。その後も他の事業に参加される学生もいました。
- ・参加者の主体性を引き出すために、協働団体と連携できました。
- ・最終のイベントでは、様々な団体が自主性を持って交流し合え、センターとしてはサポート体制で取り組みました。

4 今後の抱負

○ 事業実施後に、実施結果について振り返ったことなどを記載してください。

- ・少しでも多くの方が SDGs へ関心を持ってもらえる目的で行いましたが、参加されたほとんどの方が満足され、刺激され、意識を深められ、今後も意識し、このようなイベントに参加したいとの声が聞けました。そして繋がった団体やボランティアの方は、やりがいがあり、発信し続けたい思いがあり、自分たちのできない部分をいきセンが補い、協働で取り組みたいとの感想が聞けました。それぞれの相乗効果が期待できているこの取り組みは、継続的に形を変えて取り組みます。
- ・また、SDGs については、従事者が常に外部の情報にアンテナを張り、参加できるイベント等に自ら参加し、自身の知識や見聞をアップデートします。

【事業名】多世代交流事業（サロン事業）

事業の概要

- 1 開催日時： ①「いきいき憩いの場」 毎週水曜日 10:30～12:00
②「ふれあい基地」 毎週土曜日 10:30～12:00
③「ふれあい喫茶」 毎週土曜日 13:00～14:30
- 2 開催場所： 中京いきいき市民活動センター サロン
- 3 参加人数： ①467名（50回） ②402名（45回） ③468名（44回）
- 4 協力団体等： キッズベリー・なないろ会・和太鼓サークル・京都すまいるプロジェクト・
ニュービー・布おもちゃ作りサークル・グラスアートサークル・
フラワーサークル・書道サークル・学生団体 Bohno・花園大学学生・
学生団体 JVO 他
- 5 予算： 2,107,500 円 / 決算：2,246,622 円

1 事業内容

- 事業の内容を具体的に記載してください。

地域で抱える問題も多様化していることからお互いを理解していく交流「多世代交流」できる事業を行いました。孤立しがちな環境で暮らす子育て世帯や高齢者、核家族化や地方から来ている大学生など、家族構成や問題は様々で、外部のコミュニケーションを取ることで解消に繋がりました。リタイヤした高齢者の知恵や大学生の新しい発想や行動力を生かした事業に、より安心して子育てできる環境づくりを展開します。そこで感じる高齢者への生きるための目的要素や現状では得られない多世代から得る情報によって双方にメリットを起こす取り組みを狙いにします。3つの対象者に分け取り組みを実施します。どの取り組みも団体と協働で活動し、活動団体の活動の励み、活性化に繋がります。

- ①「中京いきいき憩いの場」 乳幼児と保護者×高齢者 協力は子育てサークル・ニュービー・書道サークル・ヨガサークルなど。

内容は昔の懐かしい歌や手遊び・リトミック・読み聞かせ・浴衣の着つけ体験と盆踊り・ヨガ体験・ブリザーブドフラワー体験・レコード鑑賞など。

- ②「中京ふれあい基地」 小・中学生×大学生 協力は学生団体 京都すまいるプロジェクト・Bohno・花園大学学生・JVO。

内容は工作や体を動かすレクリエーション、お祭りを模した季節のイベント・手作り体験・料理体験・太鼓体験・お出かけ体験・陶芸体験・リユース体験など。

- ③「中京ふれあい喫茶」 高齢者×大学生 協力は京都先端科学大学学生・花園大学学生・産業大学学生。

内容は麻雀やボードゲーム・スマホの触り方・健康体操・クイズで脳トレ・歌や音楽鑑賞・ものづくり体験・レコード鑑賞など

2 準備段階での工夫

- ・スタッフと協力団体が毎月、会議をして、各年齢層が来て楽しめる内容や自然に打ち解ける向け方、学生が自然に入れるきっかけなど、それぞれに問題点を確認しながら事業に取り組みました。

- ・活動は写真と動画で、わかりやすくし、チラシ、HP や SNS に毎週、情報公開し、繋がりのある方からは、その情報を見て申込みや問い合わせがありました。また、興味のある方は繋がってもらえたら詳しくわかりますと誘導し、そこから申込みされていました。
- ・大学生ボランティアは随時募集し、見学や体験も行い、年間で途中参加もありました。チラシ等は大学にお願いし、配布しました。グループ LINE をつくり、連絡や周知をやりとりしました。昨年に続き、スムーズにやり取りできました。事業の後は、大学生からも感想や思いを聞き、今後に繋げています。
- ・毎週あるので、外にはコルクボード、館内にはホワイトボードにスケジュールを示し、来場者にわかるように、予定表やチラシでわかるようにしていました。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

- 事業を実施することで期待される効果や、目標としたことなどを記載してください。
 - ・多世代で関わる中でコミュニケーション力やふるまいの向上を図ります。地域の大人と一緒にあって子どもの豊かな体験（人との関わりや伝統文化の行事体験など）を生み出し、活動することの価値に気づき、成長過程にある子どもたちにはとても大切な経験となり、地域で理解も深まることを目標にします。
 - ・共働き家庭や少子化による兄弟の減少などの傾向のある小・中学生に必要なコミュニケーションと人の繋がりがもてる居場所づくりを目指します。大学生は次世代を担う人材の育成を目的とします。
 - ・高齢者の「孤立化」や「無縁化」、「貧困化」などが深刻化するなか、少しでも多くの高齢者が社会的なつながりを持ち、心豊かな生活を送れるよう支援することと、大学生に見られる、異世代間の交流が少なく、社会性や人間関係の乏しさなどの問題解決を目的とします。お互いの足りない部分が補われ、この取り組みでしか得られない機会となり交流の輪に繋がります。

(2) 事業実施による目標の達成度

- (1) の達成度について自己分析し、記載してください。
 - ・乳幼児と保護者の間に高齢の方の温かい見守りや声の掛け合いが、子ども達も自然になじめる雰囲気となり、保護者も安心して参加され、経験豊かな話を興味深く聞かれ、まさに多世代交流となりました。
 - ・ふれあい基地で協働できた京都すまいるプロジェクトは毎月 1 回すまいるプロジェクトが主になり、企画・実践にまわり、様々な関りを挑戦してくれました。活動拠点の『WaGaYa』で実施した企画があり、当事業の参加者を独自の活動への誘導もでき、双方にとって良い活動となりました。センタースタッフは企画のアドバイスや広報、現場のサポート役にまわり活動できました。
 - ・大学生が主体となって進めることで、小・中学生と大学生の積極的なやり取りが増え、関係性を築きやすくなっていると考えます。
 - ・ふれあい基地に参加していた中学生から、「自分が取り組んできた『百人一首』をより多くの人に知ってもらい、みんなで遊べるようなイベントを企画してみたい」と企画開催の相談がありました。スタッフが内容の組み立てやチラシ作成・広報等をサポートし、計 3 回の開催に至りました。

- ・ふれあい基地の和太鼓は、個々に体験していた内容から、チームで取り組む内容にリニューアルし、より交流が生まれやすいよう促しました。地域貢献や多世代交流に関心を持つ花園大学の大学生が多数加わり、前年度よりさらに人数が増加し、世代の幅も広くなり、まさに多世代が1つのグループで混ざり合って、体験と交流ができました。また SNS で情報を見られた、和太鼓づくりをされている方から、しめ太鼓を5個寄付して頂きました。参加者はより活動を励まれています。
- ・月、あるいは隔月で継続的に参加することで、準備や片付け、受付等、運営の流れを理解してもらいやすく、回数を重ねるごとに大学生ひとりひとりの主体性が高まってき、参加者へ自ら積極的に話しかけたり、筆談や支えが必要な方がいれば状況に応じて丁寧にフォローしたりと、より良い雰囲気づくりやサポートに努めている様子が顕著に伺えました。
センタースタッフともコミュニケーションの機会が増えたことから気軽に話せる関係性ができ、談笑や相談、報告などをフラットにできる環境を維持できています。
- ・どの取り組みも、市民活動団体が快く参加され、意欲もって企画され、活発な動きが見られました。

4 今後の抱負

- 事業実施後に、実施結果について振り返ったことなどを記載してください。
- ・様々な世代の方との交流で、それぞれの良さが入り交り、他では体験できない事業なので、協力団体・参加者・大学生、それぞれの意見を取り入れ、今後も企画します。また、新しく繋がる個人や団体も大切にし、人が交流し合える仕組みを継続します。広報では、HP と SNS は継続しつつ、新しい手段で取り組めるよう検討します。
- ・この事業に参加や協働できたことをきっかけに、新しい活動やより良い活動へ繋がられるよう、新しい情報を取り入れ企画・運営していきます。

※ パンフレットや事業周知チラシなどを添付しても構いませんが、1事業につき1～2枚程度としてください。

【事業名】市民活動応援事業（活性化事業）

事業の概要

- 1 開催日時： ①8月16日（水） 11:00～16:00
②10月28日（土） 10:30～12:00
③11月25日（土） 10:30～12:00
④1月31日（水） 15:00～16:30
- 2 開催場所： 中京いきいき市民活動センター 会議室
- 3 参加人数： ①73名 ②37名 ③12名 ④14名
- 4 協力団体等： なないろ会・いきいきクラブ・京都工芸繊維大学学生・
京都すまいるプロジェクト・いすヨガサークル・絵画サークル
- 5 予算： 88,000円 / 決算：95,040円

1 事業内容

- 事業の内容を具体的に記載してください。

市民活動団体やこれから始めようとする人と、組織を構成し互いの活動を応援する事業を行いました。日常の不安や問題・成功例などを話しまとめ、そこから問題を解決できるワークショップや交流会を行いました。

- ①②孤立・ひきこもり・生きづらさ・自傷、自殺を防止するために人との交流を目指したイベントを開催しました。
- ③講演会「やる気を引き出すセミナー」魔法の質問のお題に沿って、グループディスカッションを行い実生活に活かせる体験をしました。
- ④イベントとワークショップで参加された方と個々の活動の近況会を行い、双方の良い点や悪い点、今後の活動に繋がる話しをしました。

2 準備段階での工夫

- ・事前の話そう会では、グループに分かれ、個々で自由に意見交換できるよう形式で進めました。お互いの問題を知ること、それぞれの活動を知る機会になりました。イベントに繋げるためにも双方の活動を知り、それぞれが協働で取り組める企画へ繋がられました。
- ・イベントでは、「今日は楽しく」を1つの目標にし、それぞれの得意分野を発揮できるよう企画しました。
- ・ワークショップに参加される子育て世代の方が、子供を連れて参加できるように、サポートできる場所と子育てサークルの方にも協力頂き、サポートしました。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果, 目標等

- 事業を実施することで期待される効果や, 目標としたことなどを記載してください。
 - ・市民活動や個人の方で、身近な困りごとを話す機会を持つことで、他の人の考えを聞くことができ視野が広がり、活動や行動の問題解決につながります。
 - ・グループディスカッションすることで、それぞれの思いや考えを伝え、みんなの意見で企画に繋げることができます。
 - ・全く違う活動や環境の方の話を聞くことで、今まで気づかなかったことを発見し、見直す機会をもてます。
 - ・問題から企画に繋げ、それぞれが前向きな考えとなり、今後の活動意欲に繋がります。

(2) 事業実施による目標の達成度

- (1) の達成度について自己分析し、記載してください。
 - ・グループに分かれての交流会では、それぞれに困りごとを話し合い、問題解決に向け、自主的に意見を言い合えることができ、解決に向けた取り組みとして、イベントとワークショップを計画し実行できました。
 - ・このイベントにより、貧困や家庭環境で救いや援助を求めても見落としてしまっているかもしれない子ども達を外出させ、日常を忘れさせる機会を作ろうとした活動団体の思いを、形にするサポートができました。
 - ・活動団体と他団体をマッチングさせることで、より良い活動にもなり、また活気づき、参加者が賑わうイベントを作ることができました。
 - ・参加団体の主体性を引き出すために、協働団体の得意分野を活かせるイベントに繋がりました。特に新しく参加された京都工芸繊維大学学生や京都すまいるプロジェクトの学生は、企画・運営を経験し、今後の活動意欲にも繋がりました。
 - ・様々な団体が自主性を持って交流し合え、センターとしてはサポート体制で取り組みました。

4 今後の抱負

- 事業実施後に、実施結果について振り返ったことなどを記載してください。
 - ・グループディスカッションは重ねるごとに、意見も言いやすく、活発になるので、その形式で行い、センターは団体間のつなぎ役で努めていきます。
 - ・参加された団体とは良い意見交換ができ、協働で取り組める機会が持て、問題解決に向け前進できる事業となりました。
 - ・団体のサポートができ、参加された方も喜んでおられ、気持ちが前向きになれた感想が聞け、この取り組みは意味のある事業になり、今後も、内容を変え、市民に寄り添い、応援、サポートできる取り組みを企画していきます。

【事業名】持続可能なまちづくりと地域の活性化事業（活性化事業）

事業の概要

- 1 開催日時： ①5月19日（金）18:30~20:00
②6月23日（金）18:30~20:30
③12月8日（金）18:30~21:00
④3月18日（月）18:30~20:00
- 2 開催場所： 中京いきいき市民活動センター 会議室 アスニー京都
- 3 参加人数： ①11名 ②14名 ③13名 ④12名
- 4 協力団体等：NPO 法人暮らしづくりネットワーク北芝・イーチ合同会社・
株式会社コスト・くらら庵こども食堂・エール子ども食堂
アート福祉プロジェクト「HARETOKE」他
- 5 予算： 210,000円 / 決算： 224,740円

1 事業内容

各まちづくり協議会の代表者が集まり、各団体の活動の現状と課題などについて話し合いました。共通課題としては、共働きや転勤者、マンションや集合住宅による閉鎖的な環境の中、近所同士の会話が減り、孤立しがちな環境で暮らす子どもの状況や子育て世代の親同士が安心してできる居場所や高齢者家庭や独居世帯や障がい者のいる家庭の居場所づくりの必要性に着目しました。若者や子育て世帯等と呼び込み賑わいを創出し、地域の活性化をはかる内容を意見交換しました。

①リモートによる意見交換会

②③専門家や先進的なまちづくり活動に取り組んでいる方を招いた学習会

④まちの課題発見から、生活をより良くするためのワークショップ（マップ作り）に取り組みました。

2 準備段階での工夫

- ・他都市で活動されている方の話しや幅広い団体間で意見交換を目的とするため、リモート形式で行いました。
- ・意見交換会の後、整理した内容を、メール等で共有しました。
- ・前年に繋がった他都市で活動している市民活動団体と連絡し、視察をしたことで学習会を行うことができました。また違う活動団体に繋がり、幅広く情報収集することができました
- ・意見交換と学習会が終えた後、問題解決に結ぶ、ワークショップを企画でき、各団体に持ち帰ることができ、今後の課題解決に向け前進できました。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果, 目標等

- 事業を実施することで期待される効果や, 目標としたことなどを記載してください。
 - ・まちづくりという同じ目的を持った者同士で意見を出し合い、共有することで、いくつもの案が得られ、解決への対策に繋がります。
 - ・各団体と協働で行う事業によって、コミュニケーションが築けられ、まちづくりへの重要性を意識づけられ、内容を高めることができます。
 - ・経験ある方の学習会によって、行動意欲が増し、より良い事業へと繋がります。

(2) 事業実施による目標の達成度

(1) の達成度について自己分析し, 記載してください。

- ・意見交換会や団体間が繋がったことで、互いの考えや問題点が確認でき、目的が見え、ワークショップができ、解決に向け前進できる機会となりました。また、自主性が高まるように定期的に連絡をとり活動を継続していくことを確認されました。

4 今後の抱負

- 事業実施後に、実施結果について振り返ったことなどを記載してください。
 - ・日常生活の中に、誰でも不安や問題があり、1人では解決できないが仲間をつくることで解決に結ぶことがわかり、つなぎ役として、いきセンがサポートしていきます。
 - ・まちづくりのリーダーは、連携が重要で、新たな団体と、連携を図るサポートをしていきます。より良い活動になるよう、いきセンに入る情報を共有し、活動の輪を広げる支援を図っていきます。

3. 利用料金の収入実績及び管理運営に係る経費の収支決算

利用料金の収入実績

令和5年度実績：円（前年度比－）

内訳 会議室等：2,540,400円（前年比115.9%）
付属設備：0円 ※自主事業分を除く
スモールオフィス：0円

2 管理運営に係る経費の収支決算

別紙収支決算書のとおり

4. 施設の利用者満足度の把握

1 利用者満足度の把握状況

（1）全センター共通窓口サービス調査

【実施時期】令和5年11月実施

【調査項目】窓口サービス

（2）センター独自アンケート

事業実施時にアンケートを実施

2 利用者満足度把握の結果

（1）全センター共通窓口サービス

項目①

たいへん満足 40.5% 満足 55.4% 不満 0.0% たいへん不満 0.0% 無回答 0.0% アンケート回収数 100%

項目②

たいへん満足 39.6% 満足 59.4% 不満 1.0% たいへん不満 0.0% 無回答 0.0% アンケート回収数 10「0%

項目③

たいへん満足 40.6% 満足 59.4% 不満 0.0% たいへん不満 0.0% 無回答 0.0% アンケート回収数 100%

項目④

たいへん満足 40.6% 満足 58.4% 不満 1.0% たいへん不満 0.0% 無回答 0.0% アンケート回収数 100%

項目⑤

たいへん満足 42.6% 満足 57.4% 不満 0.0% たいへん不満 0.0% 無回答 0.0% アンケート回収数 100%

項目⑥

たいへん満足 39.6% 満足 60.4% 不満 0.0% たいへん不満 0.0% 無回答 0.0% アンケート回収数 100%

項目⑦

たいへん満足 39.6% 満足 60.4% 不満 0.0% たいへん不満 0.0% 無回答 0.0% アンケート回収数 100%

5. 指定管理者による管理運営業務の自己評価

(2) センター独自アンケート

○結果の概要を可能な範囲で記載してください。(例：概ね満足 等)

- ・貸館利用時の備品として、無料で卓球台・有線マイク・Bluetooth スピーカーを貸出しとして増やしています。ヨガやダンスなどでスマートフォンから Bluetooth スピーカーに飛ばして音楽を流すなど、利用される事が多いので、利用者から大変喜ばれることが多く、卓球台も若い世代から高齢者まで、少人数で予約されて有意義に利用出来ているのでありがたい。などの声をいただいています。無料 Wi-Fi を設置し各部屋に IP アドレス・パスワードを掲示する事で利用者の方に周知でき、利用時に便利になったと好評でした。
- ・貸館利用申請については、電話・メール・SNS で仮予約システムが出来るようにしたため、とても便利に利用できるようになった事も喜んでいただいています。

3 意見等への主な対応状況

- 利用者からの意見で対応したものを記載してください。
 - ・初めて来館される方には、中京いきいき市民活動センターがどのような施設なのか理解していただけるように、パンフレットを渡して説明したり、利用団体代表の方へ複数枚渡す事で周知してもらい、その際に不明な点や質問にも答えるなどしました。
 - ・イベント等の案内を分かりやすく個別にチラシを作成し、来館の際に口頭で説明する事で理解していただき、参加に繋げることができました。

6. その他施設の管理運営に関する重要又は異例な事項

- 取り組んだ事業等の総括を記載してください。

仮予約システムの導入・無料 Wi-Fi の設置については、利用者からの要望を確実に受け入れる事ができているように思います。利用頻度は高く、各部屋に IP アドレスやパスワードを分かりやすく掲示している事も利用者から好評です。
- 今後、解決すべき課題等があれば記載してください。

当センターにはエレベーターが設置されていない為、高齢者や身体が不自由な方は 1 階会議室のみの利用となり、利用者からの強い要望は会議室や料理室を利用出来るように、エレベーターの設置が課題であります。併せて、会議室の 1 部屋でも防音設備を備えられるようになれば、利用者にとって利用の幅が広がり、新規の利用者増加に繋がると考えます。
- 次年度に向けた対応について記載してください。
 - ・利用者が何を求めて、中京いきいき市民活動センターを利用されるのか。など、思いを聞けるように従来通り意見箱を設置し、常に利用者の思いを聞ける環境づくりを心掛けます。
 - ・利用団体の特技や今後やってみたいと思う事などに耳を傾け、中京いきいき市民活動センターがサポートしながら利用団体主導の事業やイベントが行えるような環境づくりにも携わっていけるよう努めます。
 - ・今後も情報発信等については今年度同様、SNS を更に良いものとして広められるよう引き続き行います。